

個人間の財の貸し借りを支援する ソーシャルレンディングプラットフォームの開発 —貸し借りを通した豊かなコミュニケーション—

1. 背景

現在、さまざまな場所で貸し借りがおこなわれている。レンタカーやレンタルビデオなどの商業的なものから図書館など、安価にものを使うことができる機能や、所有から利用へという流れのものもある。その他にも貸し借りには友だち同士でものを融通し合うことや、おすすめの本を紹介するなどといった利便性の他に友だちとより楽しむためという側面もある。ここでは「もの」を媒介とした信頼や興味の共有を通してより仲良くなるという機能が働いている。

友だち同士での貸し借りは現在もさまざまなおこなわれているが、現状ではまだまだ広がっていないと私たちは考えている。それは、たとえ仲の良い友だちであっても相手がなにを持っているかわからない場合や、「貸して」や「貸すよ」と言い出すタイミングがないことが原因と推測される。

2. 目的

本プロジェクトでは、この友だち同士の貸し借りをよりスムーズに、楽しくすることを目的としている。私たちが提供するサービスによって、現実の世界で会うことができる友だち同士が、貸し借りを通してより仲良くなることのできるようになることを目指す。

3. 開発の内容

本プロジェクトにおいて開発したサービス、CasCa について説明する。

これはユーザ間の貸し借りを記録し、友だちの貸し借り履歴を閲覧することができるサービスである。

ユーザは twitter というマイクロブログのアカウントを用いてログインし、貸し借りをおこなった友だちのアカウントと貸したもの、または借りたものを入力し登録する。登録した貸し借りは twitter 上につぶやきとして流れ、ユーザのフォロワーのタイムラインに流れる。つぶやき上のリンクからはそのユーザのこれまでの貸し借り履歴が閲覧できるようになる。その画面からは他の貸し借りに対して Facebook での like ボタンを押すことができ、また次に貸してね、というリクエストを送付することができる。CasCa は web サービスでありブラウザがあれば PC でもスマートフォンでも、OS を問わず利用することができる。

図 1 はトップページのスクリーンショットである。最上部の入力フォームからユーザは簡単に貸し借りの登録を行うことができる。そして下部には友だちの貸し借りの履歴が表示され、閲覧したり、リクエストを送ることが可能である。

このサービスの狙いは2つある。まず友だちとの貸し借りを記録として残すことにより、貸せるものでかつ借りる価値のあるもののリストがつくられ、そこから新たな貸し借りが発生すること。そして友だちと貸し借りの記録の共有をおこなうことにより、ものを通して友だちをより知ることができ、友だちを通してものをより知ることができるといえる点である。

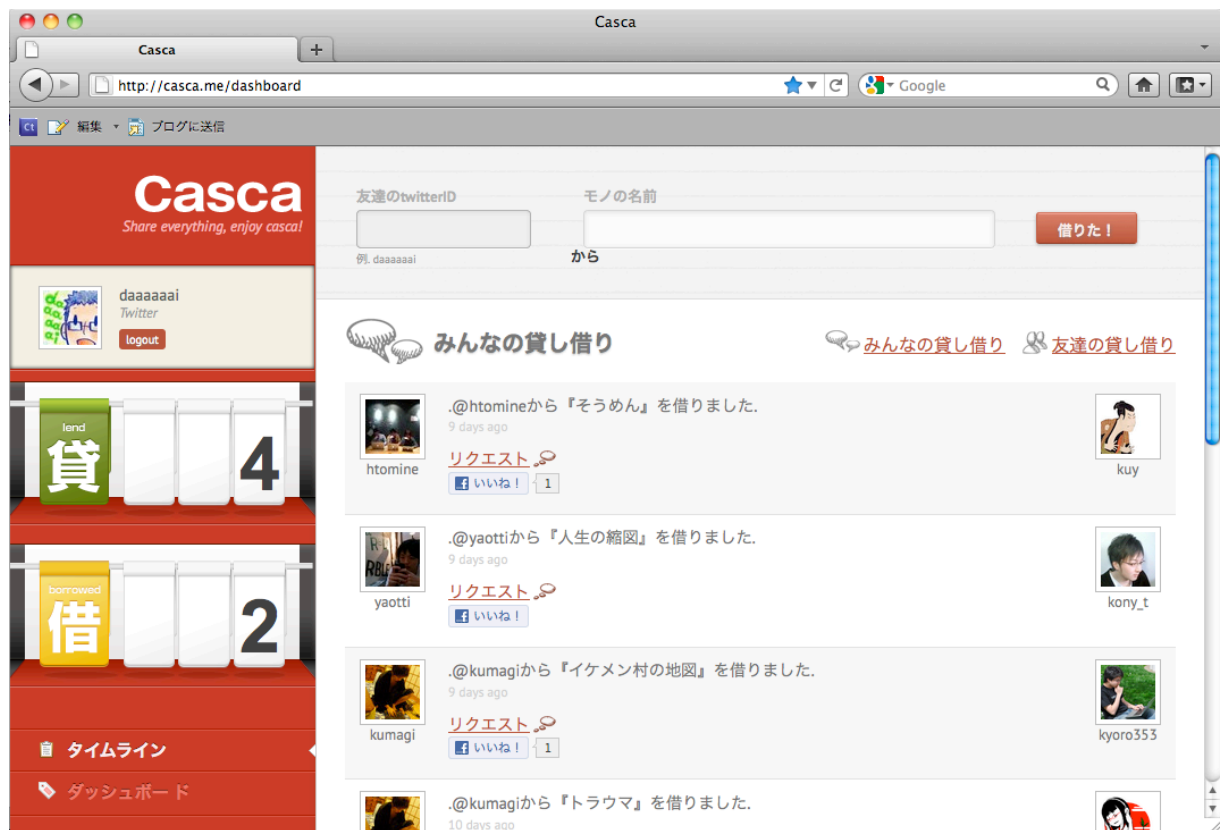


図 1: トップページのスクリーンショット

4. 従来の技術(または機能)との相違

今回開発したサービスによって、ユーザは友だちとの貸し借りを記録することが可能となった。これは貸し借りのリマインダ・メモにとどまらず、ユーザのもっているものや興味をも可視化し、友だち間での貸し借りを誘発することができる。こうした、非営利で、友人間の貸し借りを支援するサービスはこれまでほとんどなく、これにより、ものの貸し借りを通してユーザ間の交流を深めることが可能となる。

類似のものとして、ソーシャルグラフを利用したもののやりとりを支援するサービス Livlis があるが、これはものをあげたりもらったりするだけにとどまっているため、ユーザ同士の継続性のある交流が期待できない問題と、ものを欲しがらただけの人が発生してしまう問題がある。本プロジェクトで開発したサービスは貸し借りを主眼におくことで、ものをあげっぱなしではなく返却時にも交流機会を持つことができる点と、コミュニティ内のユーザ同士での継続性のある交流を実現できうる点で異なる。

5. 期待される効果

今回、開発したサービス、CasCa の特徴はユーザが気軽に貸し借りを登録することにより、友人間での新たな貸し借りを創発することである。説明すると、貸し借りの登録から、もっているもので、貸す価値のあるものがリスト化されていくことと、友だちの貸し借り履歴を閲覧するなかで貸し借りのリクエストを送りやすくすることである。これにより小規模なコミュニティにおいて連鎖的な貸し借りを引き起こしやすくし、友だち間でより楽しめることが期待できる。

6. 普及(または活用)の見通し

このサービスは twitter をベースにしており、独立した SNS のようにユーザが増えれば増えるほど楽しさや価値が生まれるタイプのものではない。これは爆発的な広がりを目指しにくいことも意味するが、ユーザ数が大きく増えなくとも、小規模なコミュニティで完結して使うことで楽しむことができるということでもある。今後はユーザにどう受け取られるかを観察しつつサービスの方向やインフラ、マネタイズを検討していく。

7. クリエータ名(所属・採択時)

曾川 景介(京都大学大学院 情報学研究科)

片山 大 (京都大学大学院 情報学研究科)

(参考)<http://casca.me>